

七

なら七口

三條通りから
富雄川・
砂茶屋へ

奈良町
にぎわいの家
から
約8km

「よりの大阪」。生駒の暗峠(くらがりとうげ)まで4里(約16km)、そこから大坂・長堀橋までまた4里。急な峠を越えて、人や情報が行き来しました。さて、暗峠はよく紹介されていますが、奈良町から峠に行くまでの道もなかなかどうして面白い。今回は、富雄川沿いの砂茶屋までを歩きます。

行程の目安

近鉄奈良駅

起点

(おおよその直線距離で測定)

- 近鉄尼ヶ辻駅まで……………約4.5km
- 砂茶屋まで……………約7.5km
- 追分梅林まで……………約9km
- 近鉄南生駒駅まで……………約12.5km

- 暗峠まで……………約16km
- JR玉造駅まで……………約30km
- 大阪長堀橋まで……………約32km
- 大阪高麗橋まで……………約34km

①猿沢池

興福寺が行う「放生会」の放生池として、天平21年(749年)に造られた周囲360mの人工池。中秋の名月の日に、池の水をくんで手足をつけると霜焼けにならないとか。南都八景「猿沢池の月」。芥川龍之介「龍」は、猿沢池から龍が雲を呼び雨を降らせながら天に昇ったという伝説が素材。

②旅館街

江戸時代、奈良の大仏再興をきっかけに奈良を訪れる人が急増。江戸後期には伊勢参拝を兼ねた旅が広まり、全国から旅人がやってくるため、樽井町や今御門には宿泊施設が軒を連ねた。



*写真提供: 魚佐旅館

③道路元標/奈良懸里程元標

元々は餅飯殿商店街入り口に道路元標があり、そこに印が残る。



④奈良晒

麻はすでに古事記に記され、鎌倉時代には南都寺院の袈裟が記録に残る。徳川幕府の御用達として名声を上げ、武士の袴や僧侶の法衣に用いられた。奈良町では内職も含めてほとんどの家が麻製品にかかわっていたという。

⑤隼神社(はやぶさ)/元の木阿弥

角振明神。付近に住んでいた盲目の琴名人・木阿弥は筒井順昭の影武者として戦国乱世を過ごしたが世情が落ち着くと、褒美をもらって元の暮らしに戻った。元の木阿弥の語源という。

⑥奈良のシンボルロード「三条通り」

春日大社 一の鳥居前〜JR奈良駅前の区間。平城京の三条大路を引き継ぐ。電線無柱化、おん祭りのお渡りのため車止めは可動式。

⑦南都銀行

日本銀行の建築技師・長野宇平治の設計の近代建築(大正15)で、正面のイオニア式列柱が見どころ。



⑧奈良漆器

螺鈿技法は奈良の独断場。

夜光貝やアワビ貝などを模様の形に切り、生地に埋めて研ぎ出す技法。

8-1 ローソン奈良角振町店

建物本体は明治初期の町家で登録有形文化財



奈良みやげ

- 鹿角細工 奈良の角切りのものと野生のものを使用。奈良土産として江戸時代から刀掛けや箸、櫛、置物など多種販売された。扱う店を「ツノ屋」と呼んだ。
- 木製灯籠 乾燥させた吉野杉を使用
- 面 古染面は推古天皇の頃に仏教美術として伝来。11世紀以降、能楽や狂言の誕生とともに日本独自の面が作られるようになった。
- 一刀彫り ●奈良筆・奈良墨 ●奈良団扇 ●奈良漬け



三条通りには奈良を代表する名産のお店がいろいろあるよ。あれもこれも奈良ならでは!



出典: 地理院地図に目印や線を追記して掲載

⑨三条会館

大正末の鉄筋コンクリート3階建ての欧風建物

⑩一刀彫

奈良人形。ノミで豪快に彫り上げた上に、金箔や岩絵具等で極彩色を施す。元は「おん祭り」の神事用の人形で、神に捧げるため清浄第一に、人の手を極力加えず一刀で仕上げたように見せた。

⑪浄教寺

1224年に開創され、徳川家康から現代地を戴いた。明治時代に日本文化を高く評価したフェノロサが講演し(通訳:岡倉天心)、奈良を廃仏毀釈から守った。

⑫百万辻子(ひゃくまんずし)

春日大社の巫女・百万と子供が生き別れになり、やがて京都で再会。子は僧となり、孝行を尽くした。世阿弥の謡曲「百万」。この西照寺に百万の塚が残る。

12-1 開化天皇陵

欠史八代の一人。飛鳥から大きく離れて北部の春日率川宮に都を移した。

⑬奈良筆・奈良墨

筆は飛鳥時代に中国から輸入されていたが、国産は806年、空海が遣唐使として帰国した際に筆の製造技術を持ち帰ったのが始まりという。中世には興福寺の二諦坊(にたいぼう)で、持仏堂の灯の煙が溜まったものを膠と合わせて油煙墨を作った。国内シェア95%



⑭奈良団扇

重ねた和紙に小刀を垂直に差し入れて奈良風物や正倉院文様を「突き彫り」した「透かし彫り」が美しい。奈良時代以来、春日大社の神職の手内職として製作されていたという。

⑮奈良漬

奈良漬の歴史は古く、平城京の長屋王木簡に納品伝票が残る。それぞれ味自慢の奈良漬店が市内各地にある。

⑯月日神社

道路拡幅により前の店舗が無くなり、姿を見せた。



⑰JR奈良駅/

奈良市総合観光案内所

明治23年、奈良・王寺を結ぶ大阪鉄道開通当時の駅舎は木造平屋建て。昭和9年に改築された駅舎は鉄筋コンクリートタイル張り、仏閣風和洋折衷の建物。平成13年曳家工法で30m北へ移動し、現在は観光案内所に。

⑱白藤学園

明治26年創設。中院町、西御門町、小西町と移転し、昭和3年に現在地へ。当時、周囲は田んぼだった。(写真協力: 学校法人白藤学園)



⑲三条村野神

毎年6月の野神祭りには絵馬が配られた。

⑳田村第(たむらてい/たむらのだい)跡

藤原仲麻呂の邸宅跡。天平勝宝4年(752)東大寺大仏開眼供養の帰りに孝謙天皇の行幸を仰ぐ。

㉑奈良市役所

市役所は長らく奈良町の現・奈良市ならまちセンターにあったが、昭和52年に現在地に新庁舎が落成した。

㉒出屋敷地蔵尊

縁起によると後醍醐天皇に關係する安産祈願の地蔵尊。この少し南には大將軍神社がある。



㉓興福院(こんぶいん)町

(現: 尼ヶ辻中町、北町と南町の一部)

法蓮町にある興福院は1665年にここから移設された。770年藤原氏が創設し、前身は和氣氏が聖武天皇の学問所を移して建てた弘文院。中興開山は羽柴秀長の後室。秋祭りでは太鼓台の担ぎ出しが行われ、近くの菅原町と平松との担ぎ比べが尼ヶ辻駅前で開催される。



㉔古跡・伏見之崗

伏見翁(ふしみのおきな)ゆかりの地。翁は東大寺大仏建立に際して、この岡で何も言わず3年間伏して造営地を守護したという。



②⑥赤膚山

赤膚焼の窯元が数軒ある。1800年頃、郡山藩主柳沢堯山が瀬戸や京から五条山(赤膚山)に陶工を招き、本格的に製造した。奥田木白(もくはく)は中興の祖。赤膚の名前の由来は、土の鉄分が多く赤みを帯びることから、という説がある。

②⑦富雄村道路元標

砂茶屋

富雄川を渡ると、いよいよ生駒の山が見えてくる。さて、砂茶屋ってどんな茶屋だったのかしら。



②⑧富雄丸山古墳

富雄川右岸にある、円墳としては全国で最大規模の古墳。4世紀後半頃の築造

②⑨追分梅林

かつては誰もが知る梅の名所だった。一時枯死してしまったが復興の取組みが実を結びつつある。

七口メモ

●暗峠の石畳

江戸時代、郡山藩が荷馬の運搬のために石畳を敷設。石畳がある国道は国内で唯一この暗峠のみという。「暗がり」の由来は、鬱蒼として昼も暗い道であった説や、あまりの険しさに馬の鞍がひっくり返る鞍返り峠とも。

●暗峠は奈良町の入り口!?

猿沢池辺りの旅館主らはこの峠に人を出して、大坂からの旅人の荷物を預かり、自分の宿まで運んだという。客にとっては身軽に奈良見物ができ、旅館にとっては必ず泊まってもらえる客引きの算段である。また、大坂や京・奈良・伊勢を結ぶ、今で言えば宅配便のようなシステムもあったという。

●正岡子規も通った!?

明治28年、「柿食えば…」の句を発した正岡子規は、同年「菜の花の中に三条四条かな」という奈良の句を発表しています。きたまちの対山楼から三条通りをやってきて、畦道をショートカットしながら菜の花畑の四条通りを歩いて、向かうは西ノ京!? こんなイメージで作ったのかもしれない。



出典：地理院地図に目印や線を追記して掲載

お帰りは・・・

- 東坂バス停 → JR/近鉄奈良方面 (奈良方面へは池の前で手を上げて/要確認) 学園前方面
- 熊取バス停 → 学園前方面
- 砂茶屋バス停 → 富雄駅

時間をチェック!



歩行記録

令和 年 月 日 () : ~ :

同行者

休憩場所

掛かった費用 交通費 円

発行：奈良市伝統文化いきいき実行委員会 奈良町にぎわいの家管理共同体

本事業は令和2年度文化庁文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)の補助を受けて実施しています。

